



3 人吉市の連結財務書類(令和4年度) 概要版

連結対象団体をひとつの行政サービス実施体とみなして、人吉市というグループ全体の資産や負債のストック情報を網羅した財務書類が、「連結貸借対照表」です。
 市民1人当たりの資産は、260万6千円です。
 市民1人当たりの負債は、151万5千円です。
 市全体に限らず連結対象団体・法人があることを表しています。

連結資金収支計算書

令和4年4月1日～令和5年3月31日

期首(3年度末)資金残高
28億5千万円

当期収支 11億3千万円
 【内訳】
 業務活動収支 31億7千万円
 投資活動収支 **△24億6千万円**
 財務活動収支 4億2千万円

期末(4年度末)資金残高
39億8千万円

期首に比べ11億3千万円増加しています。
 市全体では8億9千万円の増加でしたので、連結の対象となる事業では約2億4千万円の資金が増加していることとなります。

連結行政コスト計算書

令和4年4月1日～令和5年3月31日

経常行政コスト・・・①
302億4千万円
 【内訳】
 人にかかるコスト 39億9千万円
 職員給与・退職手当など
 物にかかるコスト 66億4千万円
 物品購入、光熱水費、施設の修繕費、減価償却費等
 移転支出的なコスト 184億7千万円
 国民健康保険事業や介護保険事業などでの社会保障給付、各種団体への補助金、
 その他のコスト 11億4千万円
 地方債の利子など

経常収益・・・②
20億9千万円
 使用料・手数料などに加え、国民健康保険料、介護保険料なども含まれます。

純経常行政コスト(①-②)・・・A
281億5千万円

臨時損益等・・・B
20億7千万円
 災害復旧事業費や資産売却損益・資産売却益など

純行政コスト(A+B)
302億2千万円

「行政コスト計算書」の考え方を連結対象団体にも適用し、ひとつの行政サービス実施体とみなして作成したのが「連結行政コスト計算書」です。
 移転支出的なコストは広域で行う後期高齢者医療の額が大きいため、全体的にその割合が高くなっています。
 1年間の市民1人当たりコスト総額は99万5千円となっています。

連結貸借対照表

令和5年3月31日現在

借方		貸方	
資産	791億7千万円	負債	460億3千万円
【資産内訳】		【負債内訳】	
公共資産	659億5千万円	固定負債	307億2千万円
道路、下水道、ごみ処理施設など		1年を超えて支払う必要がある債務	
投資等	37億円	流動負債	153億1千万円
基金、出資金、長期延滞債権など		1年以内に支払う必要がある債務	
流動資産	95億2千万円	純資産	331億4千万円
現金・預金、財政調整基金、市税等未収金など		現世代が既に負担して、支払いが済んでいる正味の資産です。	
【流動資産おもな内訳】			
資金残高	39億8千万円		
未収金	18億7千万円		

連結純資産変動計算書

令和4年4月1日～令和5年3月31日

期首(3年度末)純資産残高
332億7千万円

当期変動高 **△1億3千万円**
 【内訳】
 純行政コスト **△302億2千万円**
 財源(税収等・国県等補助金) 350億2千万円
 その他の変動 **△49億3千万円**

期末(3年度末)純資産残高
331億4千万円

連結ベースでの市の純資産(正味の資産)が、どのように増減したかを示すのが「連結純資産変動計算書」です。
 期首に比べ、1億3千万円の減少となっています。グループが保有する資産の中には、上下水道施設やごみ処理施設といった将来にわたりサービスを供給するものが多数ありますので、現役世代と将来世代のバランスを見るうえで役に立つ財務書類といえます。

連結財務書類

全体財務書類

一般会計等財務書類

一般会計
 人吉球磨地域交通体系整備特別会計
 公共用地先行取得事業特別会計

国民健康保険事業特別会計
 公共下水道事業特別会計
 工業用地造成事業特別会計
 介護保険特別会計
 後期高齢者医療特別会計
 水道事業特別会計

人吉球磨広域行政組合(普通会計)
 人吉下球磨消防組合
 熊本県後期高齢者医療広域連合

球磨川くだり株式会社
 くま川鉄道株式会社
 球磨焼酎リサイクリン株式会社

連結に際し、普通会計から連結対象の会計・法人への出資金・繰出金等や連結会計間でのサービスの提供/供給などは、連結グループ内での内部取引として相殺消去しています。